

分 類	種類名	商品名	有効成分の種類 および含有量	剤型	適用作物 名（使用 場所）	適 用 雑 草 木 名	適 用 土 壤	使 用 時 期	使用量	使用 方法	登録 会社
混合剤	PCP、 リニエロ ン除草剤 〔水質汚 濁性農 薬〕	〔中外〕 ベツト水 和剤	ベンタクロルフェノ ールナトリウム- 水化物 73.0% 3-(3.4-ジクロ ルフェニル)-1- メトキシ-1-メチ ル尿素 5.0%	水和 剤	陸 稲 あ ず き 麦 類	畑地1年生 雑草	洪積土 壤及び 火山灰 土壌	播種後 ～発芽 前	1000~1500g/10a	土壌 全面 散布	中外 製薬 八洲 化学 工業
									750~1000		
							洪積壤 土～植 壤土	播種直 後	1000		
	PCR、 MCPE 除草剤 〔水質汚 濁性農 薬〕	山本バ ーロッ クK粒 剤	2-メチル-4-ク ロルフェノキシエタ ノール 0.60% ベンタクロルフェノ ールナトリウム-水 化物 20.0%	粒剤	水 稲 〔寒冷地の 普通栽培 及び温暖 地帯の早 期栽培〕	ノビエ等水 田一年生雑 草及びマツ バイ	壤土～ 堆土減 水深 2cm/日 以下	第1回中 耕後	3~4Kg/10a	湛水 散布	山本 農薬
		山本バ ーロッ クD粒 剤	2-メチル-4-ク ロルフェノキシエタ ノール 0.80% ベンタクロルフェノ ールナトリウム-水 化物 17.0%	粒剤	水 稲 〔温暖地帯 の普通期 栽培〕	ノビエ等 の水田1年生 雑草及びマ ツバイ	壤土～ 堆土減 水深 2cm/日 以下	田植後 4～7 日または第1 回中耕後	3~4Kg/10a	湛水 散布	"

新 登 録 生 育 調 節 剤 一 覧

昭和46年5月1日～昭和46年7月31日

商 品 名	有効成分の種類 および含有量	剤型	適用作物名	使用目的	使用時期	使 用 量 (希釈倍数)	使 用 方 法	登 録 会 社
ビマコール 液剤	α-ナフタリン酢酸 ナトリウム20.0%	液剤	温州みかん (成木)	摘 果	満開後 (25～35 日頃)	650 ～ 1000 倍 (200 ～ 300 ppm)	散布	日本特殊農 薬製造
トルベス20 粉末	〃	粉剤	〃	〃	〃	〃	〃	協和醸酵工 業
トルベス20 液剤	〃	液剤	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ミカンカッ ト液剤	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	山本農薬
ヒオモン液 剤	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼商化学工 業
日産 2.4.5 - T P	2.4.5-トリクロル フェノキシプロピオン 酸トリエタールア ミン 5.3%	〃	りんご	●落果防止	収穫期の 2 ～ 3 週 間前	1800～3600 倍	果梗部に散布	日産化学工 業
			う め	●果実の着色	収穫適期 の 3 ～ 4 週間前	1200～1800	果実に散布	
			あんず	●熟期の促進及び肥大	収穫適期 の 4 ～ 5 週間前			

商 品 名	有効成分の種類 および含有量	剤型	適用作物名	使用目的	使用時期	使 用 量 (希釈倍数)	使 用 方 法	登 録 会 社
日産トマト トーン	バラクロルフエ ノキシ酢酸 0.15%	液剤	ト マ ト	●低温時の 着果を良 好にする ●果実の肥 大 ●熟期の促 進	開花前3 日～開花 後3日位 の花房	低温時(20℃以 下)50倍液 高温時(20℃以 上)100倍液	3～5花位開花 した花房(花に も)に水溶液を 芽や幼葉にかか らぬように噴霧 すること(花房 (花)が一面に ぬれる程度)	日産化学工 業
			な す		開花当日	50倍液		
オキシベロ ン粉剤0.5	インドール酪酸 0.50%	粉剤	マ メ ツ ゲ	さし木の発 根促進およ び発生根数 の増加	6～7月 (夏さし)	(製剤10g当 りの処理本数) さし穂の直径 8～6mm約100～ 200本 6～4mm約200～ 300本 4～2mm約300～ 400本 2mm以下約 400～500本	さし穂基部(切 口から約1cm) に粉衣	塩野義製薬
			イ ヌ ツ ゲ					
			き く					
オキシベロ ン粉剤1.0	インドール酪酸 1.0%	"	すぎ、ひの き、茶	さし木の発 根促進およ び発生根数 の増加		(製剤10g当 り処理本数さし 穂の直径) 8～6mm約100～ 200本 6～4mm約200～ 300本 4～2mm約300～ 400本 2mm以下約 400～500本	さし穂基部(切 口から約1cm) に粉衣	"
			カイズカイ ブキ		3～5月 (春さし)			
			クルメツツ ジ(2.3年 生枝)					
			ドウダンツ ツジ		6～7月 (夏さし)			
			ヒマラヤン ーダ		3～5月 (春さし)			
オキシベロ ン液剤	インドール酪酸 0.4%	液剤	すぎ、ひの き	さし木の発 根促進およ び発生根数 の増加		(水1ℓ当りの薬 量)40倍 (25cc)	さし穂基部24 時間浸漬	"
			茶			200倍(5cc)～ 100倍(10cc)	さし穂全体3時 間浸漬	
			桑		古 条	80倍(12.5cc)～ 40倍(25cc) 4倍(250cc)～ 1.3倍(769cc)	さし穂基部24 時間浸漬 " 3秒 "	
					新 梢	800倍(1.25cc) 4倍(250cc)～ 2倍(50cc)	" 24 時間 " 3秒 "	
			イ ヌ ツ ゲ		6～7月 (夏さし)	80倍(12.5cc)～ 40倍(25cc)原 液	" 3 時間 " 10秒 "	
			カイズ カイ ブキ		3～5月 (春さし)	40倍(25cc)～ 20倍(50cc)	" 6～24 時間 "	
			キンボウジ ュ		6～7月 (夏さし)	400倍(2.5cc) 原液	" 24 時間 " 10秒 "	
			ドウダンツ ツジ		6～7月 (夏さし)	40倍(25cc) 2倍(500cc)	" 3 時間 " 20秒 "	
			ヒタラヤン ーダ		3～5月 (春さし)	80倍(12.5cc)～ 40倍(25cc)	" 3 時間 "	

商 品 名	有効成分の種類 および含有量	剤型	適用作物名	使用目的	使用時期	使 用 量 (希釈倍率)	使 用 方 法	登 録 会 社
オキシ ベロン	インドール酪酸 0.4%	液剤	カーネーシ ョン			400倍(2.5cc)~ 200倍(5cc)	さし穂基部16 ~24時間浸漬	
			き く			500倍(2cc)~ 1000倍(1cc) 2倍(500cc)	" 3 時間 " " 10秒 "	

農 林 統 計 編

(昭 和 4 6 年 6 月 3 日 , 農 林 省 統 計 調 査 部 より 公 表)

昭 和 4 6 年 度 冬 作 物 作 付 面 積

全 国 計

区 分	合 計				田				畑		
	4 6 年産	前 年 比 較		作付面積	4 6 年産	前 年 比 較		作付面積	4 6 年産	前 年 比 較	
	ha	4 6 年—4 5 年	4 6 年/4 5 年		ha	4 6 年—4 5 年	4 6 年/4 5 年		ha	4 6 年—4 5 年	4 6 年/4 5 年
主 要 冬 作 物	小 麦	156,700	△ 61,200	72%	76,800	△ 27,500	74%	79,900	△ 33,700	70%	
	6 条大麦	31,700	△ 15,400	67	3,860	△ 3,360	53	27,800	△ 12,100	70	
	ビール大麦	81,100	△ 17,000	83	37,100	△ 2,400	94	44,000	△ 14,600	75	
	裸 麦	51,900	△ 30,000	63	29,400	△ 19,200	61	22,500	△ 10,800	68	
	4 麦 計	321,400	△ 123,600	72	147,200	△ 52,400	74	174,200	△ 71,200	71	
	えん麦	27,400	△ 1,700	94	6,610	△ 640	91	20,800	△ 1,000	95	
	らい麦	9,290	△ 620	94	3,590	△ 620	87	5,700	△ 100	98	
	春植えば れいしょ	77,300	△ 3,500	96	9,260	△ 30	100	68,000	△ 3,500	95	
	えんどう	13,400	△ 700	95	3,800	△ 210	95	9,560	△ 540	95	
	そらまめ	8,930	△ 2,170	80	3,950	△ 1,010	80	4,980	△ 1,110	82	
	なたね	13,700	△ 6,000	70	2,090	△ 1,280	62	11,600	△ 4,700	71	
	い	11,100	1,560	116	11,100	1,560	116	—	—	—	
	れんげ	80,700	△ 18,000	82	80,700	△ 18,000	82	18	△ 11	62	
	イタリアン ライグラス	55,000	12,800	128	27,600	3,500	114	27,400	8,700	147	
参 考	合 計	618,100	△ 142,600	81	295,900	△ 69,100	81	322,200	△ 73,500	82	
	そ の 他 作 物	929,000	16,600	102	61,100	4,000	107	867,900	12,600	101	
	作付総計	1,547,000	△ 126,000	93	357,000	△ 65,100	85	1,190,000	△ 61,000	95	
考	不 作 付 (4月1日)	3,035,000	64,000	102	2,543,000	40,000	102	491,600	23,600	105	
	現 在										

注 ; 1. △印は減少を示す。(以下各表とも同じ)

2. 4 麦 , えん麦 , らい麦は子実用 , 青刈り飼料用の合計である。れんげは飼料用 , 緑肥用の合計である。

3. 各作物の積上げと合計が一致しないのは , 各作物別にラウンドを行なったためである。(以下各表とも同じ)。